※令和４年度以降入学生用

学校番号	1009

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	明解　歴史総合（帝国書院）						
副教材等	明解　歴史総合図説　シンフォニア　初訂版　（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

近現代史に絞って歴史的な理解を深めましょう。歴史を学び、今起こっていること、直面している課題に対して過去を参照しながら考えていきましょう。
現代の問題を考えるときに、過去の先人たちから学ぶことを主眼としましょう。

２　学習の到達目標

知識及び技能：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。また、
諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等：近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史の変化に関わる諸事象に関する知識を正しく理解し、身につける。また、それを適切に用いることができるようにする。	歴史事項を正しく理解したうえに、歴史の転換点を正しく考察し、さらに現代社会の問題の解決を歴史的な観点から考察する。	歴史を自分の人生と重ね合わせつつ、主体的に歴史学習に向かう姿勢を身につける

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1 結びつく世界・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1. アジア諸地域の繁栄と日本 2. ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 3.ヨーロッパ経済の動向と産業革命 4.アメリカ独立革命とフランス革命 5.19 世紀以降のヨーロッパ	a：琉球とアイヌが東アジアではたした役割を理解している。 b：清と江戸幕府の政治・経済政策の特徴について考察し、表現している。 c：江戸時代の日本の対外貿易を、東アジアだけではなく世界的な観点から再構築しようとしている。 a：ヨーロッパで成立した主権国家体制と、イギリスやフランスなど各国の国家の特徴について理解している。 b：宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきについて考察している。 c：ヨーロッパにおける中央集権的な国家体制の成立と海外進出の結びつきを追究しようとしている。	リアクションペーパー考査	グループ協議	レポート
	2 明治維新と日本の立憲体制・帝国主義の展開とアジ	1. 明治初期の対外関係 2. 自由民権運動と立憲体制 3. 条約改正と日清戦争 4. 日本の産業革命と教育の普及 5. 帝国主義と列強の展開 6. 世界分割と列強の対立 7. 日露戦争とその影響	a：明治新政府が、諸外国と具体的にどのような関係を築こうとしたかをまとめている。隣国である清・朝鮮と取り組んだ外交関係を理解している。 b：・日本が導入した欧米からの新技術について具体的に考察している。 c：岩倉使節団が、具体的にどのような国々を訪問し、何を視察して帰国したのか、意欲的に調べ、協議し、追究しようとしている。	リアクションペーパー考査	グループ協議	レポート

※令和４年度以降入学生用

二学期	第一次世界大戦と大衆社会	1.第一次世界大戦とロシア革命 2.国際平和と安全保障 3.アジア･アフリカ地域の民族運動 4.大衆消費社会と市民生活の変容 5.社会･労働運動の進展と大衆の政治参加	a:第一次世界大戦後のパリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑を理解している。 a:ガンディーに象徴されるインドの民族運動を理解している。 b:アメリカ社会の大衆化の世界への広がりと、保守化による影響を考察している。 b:図やグラフを使いながら、民衆のエネルギーがどのような動きとなったか考察している。 c:ロシア革命とソ連の成立の歴史的意義を追究しようとしている。 c:各地での民族運動の展開を比較しながら、その共通点と相違点について追究しようとしている。	リアクションペーパー 考査	グループ協議（1920年代の国際協調路線）	レポート（第一次世界大戦後の日本における労働運動や社会運動）
	経済危機と第二次世界大戦	1.世界恐慌の発生と各国の対応 2.ファシズムの台頭 3.日本の恐慌と満洲事変 4.日中戦争と国内外の動き 5.第二次世界大戦と太平洋戦争	a:アメリカのニューディール政策と外交政策の変化を年表にまとめている。 a:金融恐慌がおこった原因・過程・結果について理解している。 b:フランス・スペインで成立した人民戦線政府を比較し、その後の動きを表現している。 b:この時期の、日本の国民生活の変化・影響について考察している。 b:日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。 c:ドイツとソ連が独ソ不可侵条約を締結するにいたる過程を追究しようとしている。 c:満洲事変の原因・過程・結果を考察し、その後の政府の満洲での政策を追究しようとしている。 c: 第二次世界大戦の終結にいたる連合国側の会議について時系列にその内容を追究しようとしている。	リアクションペーパー 考査	グループ協議（世界恐慌が国際秩序に与えた影響について）	レポート（恐慌からの回復を日本はどのように進めたかについて）

※令和４年度以降入学生用

三学期	戦後の国際秩序と日本の改革	1.新たな国際秩序と冷戦の始まり 2.アジア諸地域の独立 3.占領下の日本と民主化 4.占領政策の転換と日本の独立	a:戦後の日本の改革を年表にまとめている。 a:日本の占領政策の転換について、その理由を考察し、どのように進めたかを理解している。 b:国際連合のしくみと内容について、政治的・経済的な面から理解して、新しい秩序にどう対応していくか考察している。 b:日本国憲法の制定の過程を考察し、どのような手続きを経て公布、施行されたかを表現している。 c:冷戦という新たな対立がおこった、背景・過程・結果を追究しようとしている。 c:日本の復興の実態とそれにともなう政策について追究しようとしている。	リアクションペーパー 考査	グループ協議（パレスチナ問題の今後の解決について）	レポート（占領政策の転換について）
	冷戦と世界経済	1.集団防衛体制と核開発 2.米ソ両大国と平和共存 3.西ヨーロッパの経済復興 4.第三世界の連携と試練 5.55 年体制の成立 6.日本の高度経済成長 7.核戦争の恐怖から軍縮へ 8.冷戦構造のゆらぎ 9.世界経済の転換 10.アジア諸地域の経済発展と市場開放	a:西ヨーロッパの地域統合における歩みを理解している。 a:中東戦争の経過とパレスチナ解放機構の台頭を理解できる。 a:核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて理解している。 b:ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。 b:アメリカの主導権から西ヨーロッパ諸国が脱却しようとした背景を考察している。 c:グラフから米ソの核開発競争の過熱化について見出そうとしている。 c:今日の核軍縮と核保有国の実態について追究しようとしている。 c:1970～80 年代の日本の安定成長の背景にあった問題点を追究しようとしている。	リアクションペーパー 考査	グループ協議（沖縄返還の後におけるアメリカ軍専用施設の設置について）	レポート（ヨーロッパにおける地域統合の歴史）

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度